

インターバンクの声（2015 年 6 月 12 日）

一昨日の黒田日銀総裁発言をきっかけにして進んだ円買いだったが、今のところは、その後のドル最安値もどうにか 122 円 46 銭に留まっている。もう一段の調整を期待していた人達も少なくなかったようだが、一応、昨日の米小売売上高や来週に控えている米連邦公開市場委員会（FOMC）を確認してからとの気持ちが勝っていたせいか、現状は黒田総裁の発言前高値と発言の安値のほぼ中間付近での推移となっている。昨日の米小売売上高は、ほぼ市場の予想通りだったが、発表時間が近づくにつれて予想が弱気に傾いていたこともあってか、強い結果だったとの解説も目立っている。確かに、発表直後に 124 円 10 銭までドルが瞬間上昇する場面もあったようだが、結果的には波乱のない相場展開になっている。市場では米連邦準備理事会（FRB）が 9 月にも利上げに踏み切るとの観測が強まっているようだが、FOMC の結果が市場の見方通りの決断をするのかどうかの確信は持てず、意外に 122 円から 125 円程度のレンジ相場が長続きするかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。